

Ⅷ アジア・ブリッジ・プログラム(ABP) :
グローバル企画推進室事業
ABP活動報告(年次報告(平成28年度後期・29年度前期))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 白井, 靖人 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024884

VIII. アジア・ブリッジ・プログラム（ABP）

グローバル企画推進室事業 ABP活動報告

白井 靖人

1. 前書き

静岡大学では、平成25年度の文部科学省国立大学改革強化推進補助金事業「全学的な教育改革・組織改革によるグローバル人材育成機能の強化－ターゲット・アジア人材育成拠点の構築－」の採択を契機に、グローバル人材育成にむけた全学的な実施体制の構築と、同事業の着実な実施に向けた様々な施策に取り組んできた。この事業の中核をなすアジア・ブリッジ・プログラム（ABP）とその実施母体であるグローバル企画推進室（以下、推進室という。）の発足までに至る経緯については、[1]において報告されている。本稿では、平成27年度後期以降の推進室の活動を中心に報告する。

2. ABPの概要

ABPとは、本学の学士課程と修士課程において展開される四つの教育プログラムの総称である。これらの教育プログラムの概要を表1に示す。なお、入学／卒業（修了）時期については、標準的なものだけを示している。

ここで、「ABP留学生」とは、ABPの留学生向けプログラムに出願・合格し、入学した学生たちである。「一般学生」とは、留学生以外の学生をさし、彼ら向けのプログラムは「ABP副専攻」と呼ばれている。留学生向けのプログラムは、アジアと静岡、そして日本との間の架け橋となる人材の育成を目指しているのに対して、ABP副専攻は一般学生がグローバルに活躍するための能力を養成することを目的としている。同時に、すべてのプログラムに共通する目標として、それぞれの専攻分野に限定されない、いわば“理系も文系も分かる”、広い視野をもった人材の輩出を掲げている。

表1 ABPの概要

	学 士 課 程	修 士 課 程
ABP留学生	<ul style="list-style-type: none"> ●受入組織：全学部 ●受入人数：全学部合計40名／年 ●対 象：インド、インドネシア、タイ、ベトナムのいずれかの国籍を有するもの ●特 徴：一般学生とほぼ同一カリキュラムによる専門教育（全学教育科目についてはABP留学生向けのカリキュラム） ●入学／卒業時期：10月／9月 ●教授言語：日本語 	<ul style="list-style-type: none"> ●受入組織：総合科学技術研究科の四専攻（情報学、理学、工学、農学） ●受入人数：全専攻合計40名／年 ●対 象：東南及び南アジア16カ国のいずれかの国籍を有するもの ●特 徴：一般学生と同一カリキュラム ●入学／修了時期：10月／9月 ●教授言語：英語
一般学生	<ul style="list-style-type: none"> ●名 称：ABP副専攻 ●受入人数：全学部合計60名／年 ●対 象：全学部生 ●履修条件：TOEIC550点（修了には600点が必要） ●履修内容：全学教育科目の一部として、「ABP海外研修」、「ABP修了研究」などのABP副専攻向けの科目を15単位履修 ●入学／卒業時期：4月／3月 	<ul style="list-style-type: none"> ●名 称：ABP副専攻 ●受入人数：全専攻合計40名／年 ●対 象：総合科学技術研究科の全学生 ●履修条件：TOEIC600点 ●履修内容：英語で実施される科目4科目8単位を履修（うち2科目は必修。残り2科目は、英語対応科目から2科目4単位を選択必修） ●入学／修了時期：4月／3月

3. 受入学生数の推移

(1) ABP留学生

ABP留学生の受け入れは、平成27年度から開始された。平成29年度までの学士課程及び修士課程の入学者数の推移は、表2・3のとおりである。

表2 ABP留学生入学者数の推移（学士課程）

入学年度	平成27年度				平成28年度				平成29年度			
出 願 者	85				189				109			
合 格 者	15				27				31			
入 学 者	11				22				26			
印 尼 泰 越	1	2	3	5	0	3	1	18	0	3	1	22

●平成28年度については現地入試と国内入試の合計数を、平成29年度については第一次募集と第二次募集の合計数を示す。

表3 ABP留学生入学者数の推移（修士課程）

入学年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
出願者	91	61	90
合格者	56	44	51
入学者	48	36	40
国別内訳	インドネシア：15、 バングラデシュ：12、 タイ：6、インド：5、 その他：10	インドネシア：14、 インド：7、 バングラデシュ：4、 ベトナム：4、 その他：10	インドネシア：19、 バングラデシュ：8、 インド：7、その他：6

学士課程での入学者数は、順調に増加を続けているが、目安の40名／年にはまだ届いていない。修士課程においては、概ね目標どおりの入学者数を確保できている。

(2) ABP副専攻履修者

ABP副専攻は、学士及び修士の両課程において、平成27年度から開始された。

学士課程のABP副専攻は修了に3～4年を要するため、現時点では修了者は出ていない。平成27年度入学者でABP副専攻の履修登録を済ませた学生が50名程度いるが、最終的に修了する学生はその一部に限られるものと予想される。平成28年度入学者については、ABP副専攻の履修登録を行わなかったため正確な数が把握できていないが、科目の履修状況等から見て、20名程度が履修を意図しているものと思われる。平成29年度入学者については、現在履修登録を受け付けているところである。

修士課程については、平成28年度の総合科学技術研究科修士のうちの6名（情報学専攻：1、工学専攻：5）がその要件を満たし、副専攻修了の認定を受けた。

4. ABP修了者の進路

平成27年10月のABP留学生第一期生の受入から2年が経過し、平成29年9月には修士課程の第一期生が修了をむかえた。彼らの修了後の進路は表4のとおりである。

表4 平成29年9月修了ABP修士留学生の進路

	博士課程進学	国内就職	帰国	その他	計
情報学		4			4
理学	4		2	1	7
工学	9	14	3		26
農学	7		3		10
計	20	18	8		46

半数近くの修生が博士課程への進学を選び、三分の一強が日本国内での就職を希望し全員が内定を得ることができた。なかには、10月に入社し既に働き始めている者もいる。

第二期生以降についても、四分の一～三分の一程度が日本国内での就職を希望している。今年度からはじまった“ふじのくに留学生就職促進プログラム”とも連携しつつ、彼らの国内就職支援体制を構築していく予定である。

5. 今後の課題

現在ABPが抱える課題の第一は、ABP学士課程留学生の確保である。学士課程におけるABP留学生の受入数は順調に増えてきているとはいえ、目標の40名の7割にも届いていないのが現状である。目標到達に向けて、広報活動の見直しと並行して現在4カ国に限られている対象国の拡大も検討している。平成31年度の新入生募集には、新たな対象国を加えた形で臨むようにしたいと考え、準備を進めている。

課題の第二は、学士、修士両課程での副専攻履修者数の増加である。現在履修者数が低迷していることの原因は、副専攻を履修することのメリットを、一般学生に伝えきれていないところであると推測している。プログラムの内容を見直すと同時に、メリットを明確な形で学生に伝える努力を重ねる必要がある。

参考文献

- [1] 土生英里、「Ⅷグローバル企画推進室事業—アジア・ブリッジ・プログラム（ABP）—」、静岡大学国際交流センター紀要、第10号、pp.111-113、2016年3月。